


対象：肢体不自由児・生徒に関わる全ての校種の新転任教員


授業時の肢体不自由児・生徒の姿勢の安定

体幹の保持力が弱いなど、姿勢や動作の不自由さに対して、学習に取り組むための環境を整える報告をします。



肢体不自由

- ・**肢**とは？
四肢(上肢・下肢)⇒手・腕・脚・足
- ・**体**とは？
体幹⇒胴体
- ・**不自由**とは？
意のままにならない
 - ・力が入らなくて、動かしたいのに動かせない
 - ・力が入り過ぎて、思うように動かせない
 - ・動かしたくないのに、動いてしまう
 - ・安定した姿勢がとれずに、ふらついてしまう



はじめに...


肢体不自由をもつ子どもたちが日常的に使用している(車いす)を紹介します




自走タイプ車椅子
車輪が大きく、自分で回して進めるようになっています。ブレーキは車輪の横にあります。




介助タイプ車椅子
車輪は小さく、後方から介助者が押します。ブレーキは後方からでさけるもの、前方についているもの等々です。




バケツタイプ車椅子
介助タイプ的一种。体幹の支持が強い場合に、自分の体へ合ったバケツを作成し、それを車いすに装着したものです。



バギータイプ車椅子
移動のためのもので、折りたためるものが待長。安定が最重視されるため、座が深くない。学習場面には不向きです。



ストレッチャー式車椅子
介助タイプ的一种。骨や筋肉の腫れが強い等で、座位姿勢をとることが難しい場合に使用します。



電動車椅子
自走タイプ的一种で、手で操作します。腕力や操作し続ける持久力が弱い場合に使用します。バッテリーの充電が必要となります。

次に...

肢体不自由をもつ子どもたちが授業の場面で使用している姿勢保持補助具を紹介します。



どの椅子も、児童椅子に工夫がされているものです。Aは肘置きがついています。BやCは、自分に合ったシートを児童椅子に装着したものです。机(カットテーブル)を利用することで、カットされている部分に体がはまり、椅子と合わせて姿勢の安定を図ります。



座位保持椅子

肢体不自由児支援学校で多く使用されている「座位保持椅子」です。子どもの体に合わせて作成されています。普段は日常の車いすを利用し、学習場面で乗り換えて授業にのぞんでいます。



座位保持椅子 (バンダ)

教室等の一定の場所で使用する椅子に比べて、移動がスムーズな利点があります。食事場面で使用することもあります。

立位保持装置 (bronbord・スタンディングフレーム)

立位姿勢を補償する必要がある場合や、立位姿勢の方が姿勢や視点の関係から望ましい場合に、立位保持装置を使用することがあります。

肢体不自由児・生徒の障がい特性から生じる学習の困難さ

①姿勢や動作の不自由がもたらす学習の困難さ
 ②感覚や認知の特性がもたらす学習の困難さ
 ③経験や体験の少なさがもたらす学習の困難さ

(筑波大学付属桐が丘特別支援学校の取り組みの報告より)

留意すること

- 授業前の体調チェックをすること。
- どの児童生徒も、座面と体を密着させるよう、腰をしっかりと深くまで入れる。
- ベルト等の固定を忘れない。体幹を自分で支えることが難しい児童生徒の場合、椅子と体の隙間をタオル等で埋めると密着して安定する。
- 教員や友だちの動きがよく見えるような顔の位置、手指の操作が必要な場合は、本人の操作しやすい手の位置とテーブル、教材(鉛筆など)の配置を考える。
- 授業途中での本人の表情や動きを確認し、姿勢を正したり、つらそうな場合は本人の楽な姿勢を取るよう変えたりする。

こんな感じで授業を受けています



その他の指導上の配慮の工夫

➤ 「話すこと・聞くこと」について

サイン・ジェスチャー・筆談・トーキングエイド・メッセージメイト・ベチャラ・コミュニケーションター・パソコン・iPadなど

➤ 「書くこと」について

作業台・教材の配置・握りグリップ・滑り止めマット・トーキングエイド・パソコン・iPadなど

➤ 「読むこと」について

姿勢・書見台・iPadなど



肢体不自由児・生徒の学習の困難さを軽減するために...

肢体不自由のある児童生徒の障がいの状態や困難さの現れ方は、一人ひとり異なっているため、教科指導においては、障がいの特性が学習に及ぼす影響を把握し、それに対応する指導や配慮が必要となる。

また、肢体不自由のある児童生徒の中には、自信がもてない、面倒くさい、受け身が多い、生活習慣の自立が遅い、自己選択、自己決定に難しさがあるなどの傾向が見られる場合がある。その背景には、姿勢・動作の不自由、感覚・認知の特性、体験・経験の少なさ等の特性が複合的に絡み合っているものと考えられる。学習や生活全般の場面において、学習や身支度など自分でできることをやる場面を設定する、学習の中で、補助用具等を用いて自分でできる方法を工夫する、自己目標や自己評価を行って、自分の学習を計画したり、振り返ったりする機会を持つ等の工夫が必要であろう。

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 刊行物より
www.nise.go.jp/cms/resources/content/7054/seika11_4.pdf

このことは...

通常学級での指導にも活かせるのでは！

- ① 体調の把握
⇒ 学習に取り組む体力や気持ちの確認
- ② 姿勢の把握
⇒ 集中力の確認
⇒ 緊張・低緊張の確認
- ③ 学習の環境作り
⇒ 学習に取り組みややすい教室環境や教材の確認
- ④ 学習状態の把握
⇒ 書字や発声、動作の確認
⇒ 学習の習得の確認

※①～④を相互的に見た指導の組み立てが必要

最後に...

肢体不自由をもつ子どもたちの移動を援助するための補助具(歩行)と肢体不自由支援学校の設備等を紹介します。

移動を援助するための色々な補助具(歩行)



U字歩行器

施設内で使われている多くの歩行器です。高さ調節により、斜めを歩行軌に預けることで、身体を起こすことができます。



PCW

ポスター・コントロール・ウォーカーの略。身体の真横にある支持バーを持つことで、体幹の進退が得られ、肩甲骨・上肢の位置が改善される他、体幹の前傾や下肢の屈曲の防止をします。



クラッチ

左から「杖」「松葉杖」「クラッチ(ロフトランドクラッチ)」。クラッチは、前脚部支持支柱とも呼ばれ、腕に装着して使用する杖のことである。



モジュラー式歩行器

寸法調整やパーツ交換で、身体や環境の状況に応じて、様々な仕様で選択できる最新の型である。肢体不自由でも、使用している子どもはまだ少数である。



SRCウォーカー(木馬型歩行器)

体幹を前傾させてサドルで体重を支えることで、わずかな下肢の動きがあれば、前進することができる歩行器です。あくまで移動するための道具ですので、足裏をしっかり床につけて支えさせることには向いていません。



ライダーチェア

歩行器のSRC-Wに輪のせを付けて、前傾位での座位をとりやすくしました。学校では、廊下の移動などもしやすく、廊下に空間があることで、この姿勢で車椅子からの出入りもできます。前傾位ですので、舌根沈下や下顎後退が改善され、通達の喉頭への垂れ込みも少なくなり、呼吸にも良い影響が得られやすい装置です。

肢体不自由支援学校における設備の紹介



↑ 階段についている両手摺



↑ 廊下の手摺



↑ ひょうたん型便器
(後方介助ができる)



↑ トイレサイドにあるベッド



↑ バスの出入口の高さの
バスターミナル



↑ バス内についているバスターミナル

左と右の鏡の違いは？



左の鏡



右の鏡



※身の回りの姿勢のアイデアをさがしてみよう！
※アイデアを教材に活用できるかも！？

支援学校教員対象

職業(作業)の授業における ルールの示し方

知的障がいのある生徒の 職業教育の目標

勤労の意義について理解するとともに、
職業生活に必要な能力を高め、実践的な
態度を育てる

文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領

職業(作業)の授業

縫製、紙工、木工、園芸、窯業、
織物、製パン・製菓、清掃など
→ 授業で様々な道具を使う



作業を安全に行うための
ルールが必要

作業におけるルールの種類

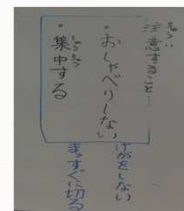
- (1) 作業開始前のルール
- (2) 作業中守るべきルール

作業開始前のルール①

- 挨拶を全員で行う
→ 作業に向けて気持ちを切り替える
- 作業ができる環境の整備
→ 不必要なものが周りにないかどうかを確認する
- 一人ひとりに授業の目標を設定する
→ 個人で設定できる場合は自分で目標を設定し、作業に対して見通しをもつ

作業開始前のルール②

- 作業を行う前にルールを確認する
→ あらかじめルールを掲示や板書する、声を出して確認するなど



作業開始前のルール③

- 作業終了時間(作業時間)を確認する
 - 時計、キッチンタイマー等の使用、終了時間を板書することで一人ひとりが「この時間までは作業を頑張る！」という見通しをもつ



作業中守るべきルール①

- 説明通りに作業を行う
 - あらかじめ道具の種類と扱い方、作業の進め方を確認する



↓
具体例を示し、ルールを守らないと危険であるということを確認する

作業中守るべきルール②

- 私語をしない
- 必要以上に立ち歩かない
- 「ほう・れん・そう」の徹底
 - 作業が終了した時の報告、分からないことは周りの教員に必ず聞くなど

まとめ

- 守るべきルールを教室の見やすい場所に提示する
- ルールは簡潔に、繰り返し伝える
- ルールに例外を作らない
- ルールを守れなかったときは、すぐに振り返りを行う(場合によっては場面を変える)
- 作業振り返りシートを活用する

授業振り返りシート

月 日 () 教科 ()

[今日の授業内容]

[今日のめあて]

[チェック項目] ○ よくできた、◎ できた、△ あまりできなかった

① 時間を守って帰ることができましたか。	
② 大きな声でおいそづきましたか。	
③ 先生の話をしっかりと聞くことができましたか。	
④ 集中して授業に取り組めましたか。	
⑤ 振り返りはきちんとできましたか。	

[反省と感想]

[次の授業で頑張りたいこと]

[先生から]

作業時にルールを守ることができたかを確認する

↓
作業終了後に毎回行うことで、ルールの定着を図る

ルールの提示方法

- 説明
- 視覚的な支援ツール
- 教材など

↓
生徒の障がいの状態や経験等に合わせてこれらのツールを組み合わせる

中学校教員対象

スムーズに進行するための
業の工夫について
中学美術編

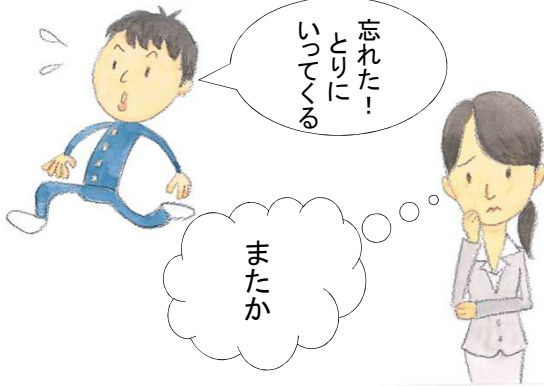


授業の工夫について

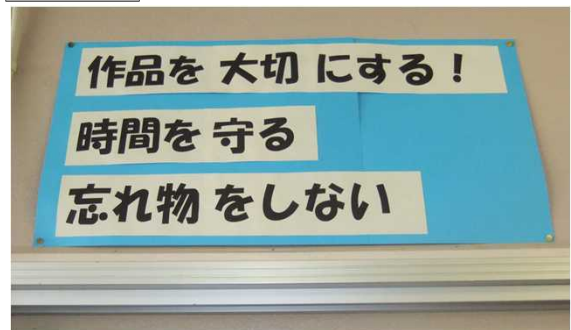
- ① ルールの徹底
- ② 道具の使い方
- ③ 見通しをもたせる工夫
- ④ 後かたづけの工夫
- ⑤ まとめ

もくじ

① ルールの徹底



①の1 授業全体のルール



スタートが肝心!

①の2 授業開始時のルール

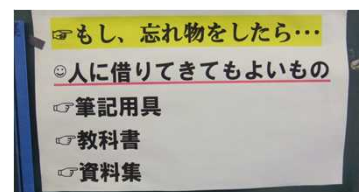
チャイムが鳴ってから忘れ物をとりにいくことはできません。
授業準備をしっかりと!

粘り強く、徹底させる!

①の3

授業開始時のルールを徹底させるために

- 1 次回の持ち物を確認しておくこと
- 2 忘れた場合はどのようにするのかを説明しておくこと
- 3 指導者は忘れた場合はどのように対応する決めておくこと



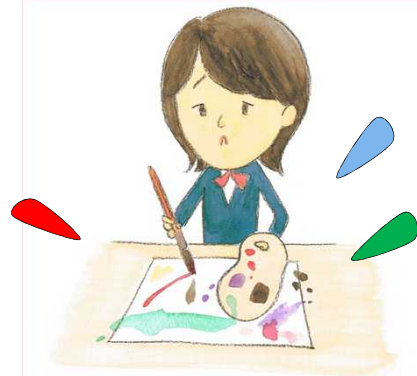
①の4 教室の使い方のルール

美術室でのマナー

- ☺3つのルールを守る。
- ☺使ったものは、きちんと元に戻す。
- ☺自分のことは自分でする。
- ☺勝手に物を持ち出さない。
- ☺最後に机を整頓し、椅子をあげてから帰る。(1番前の人はあげなくてよい。)

習慣化、パターン化すればバッチリ!

② 道具の使い方



②の1

彫刻刀の使い方

彫刻刀5か条

1. 必ず先生がいる場で使う。
2. 彫刻板を必ず使う。
3. 彫刻板は体の真正面に置いて、しっかり固定する。
4. 絶対に刃の進行方向に手を置かない。
5. 彫刻刀を動かす向きは、自分の手前側から奥に向かって動かす。

②の2 ルールを決める理由

1. ケガを防ぐため。
2. 彫っている板がすべってケガするのを防ぐため。
3. 体の真正面が一番力を入れやすく、楽に彫ることができるから。
4. 彫刻刀は両手で使うので、進行方向に指を置かないよう気をつける。
5. 大きなケガにつながるのを防ぐため。

②の4 パレットの使い方

絵の具を上手に使うポイント!

ポイント1. パレットをきれいに使う

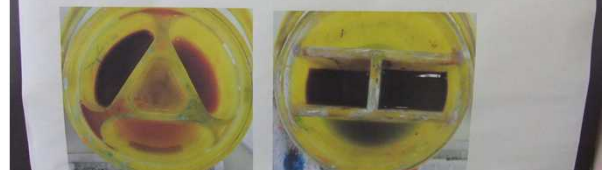
- 小さい部屋と大きな部屋を使い分ける
- 小さい部屋はチューブから絵具を出すところ
- 絵の具を箱になじませる、絵の具を混ぜ合わせる



②の5 水入れの使い方

ポイント2. 水入れを効率よく使う

- 水入れには仕切りがついていて、3~4つの部屋がある。
- 水は自分目まで入れる。入れすぎない。
- 色が混ざったり、途中で筆を洗いたいように、きれいな水ときたない水とを分けておく。
- 使い分けることで、水を入れ替える回数が減る。



③ 見通しをもたせる工夫

手順・やり方がわからない

イメージがわからない

いつまでに仕上げるの？

今、何をするの？

終わったら、どうするの？

③の1 手順の示し方

- 1 制作過程を事前に説明する。
- 2 提出期限を明確にする。
- 3 作品が完成した後は何をするのか指示をだしておく。

←『手順表』を配って説明

③の2 イメージをもちやすくするための工夫

完成作品を提示する

④ 後かたづけの工夫

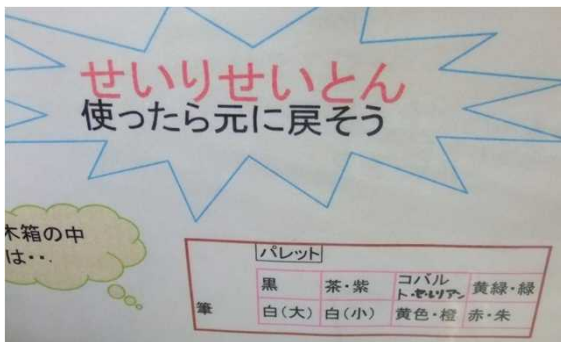
段ボール箱に、片付け方を示す『指示カード』を立てておく

『指示カード』の拡大画像。(イラスト付)

新聞紙 しんぶんし

半分に折って、大きさをそろえて入れなさい。汚れたり、破れているものは資源ゴミ箱に捨てること。

整理整頓にも、『見てわかる』支援を！



画像を拡大する。

戻す場所を、図で示す。

⑤まとめ

- 1 ルールの徹底はスタートが大事。
- 2 道具の使い方は写真や実物を提示することによりわかりやすく！
- 3 全体の制作過程を説明する、1時間の流れを提示することで見通しをもつことができる。

『視覚化』は、
あくまでも補助的な
手段にすぎません。

生徒との関係性をつくりながら、
粘り強く指導していきましょう！

終わり

対象：支援学校初任者

朝の会における教材の工夫

本日の流れ

1. 朝の会の流れとねらい
2. 朝の会について
3. 今後、取り組む予定について
 - A-1.2 音声再生装置を使って
 - A-3. 音声+画像を使って
 - B. 一日の流れ

1. 朝の会の流れとねらい(1)

1. 始まりの挨拶
ねらい：・活動の始まりを意識する。
2. 朝の会の歌
ねらい：・拘縮予防の一助として大きく手を動かす。
3. 呼名と健康チェック
ねらい：・自分の名前を意識する。
 - ・教師が全員の体調を共通認識する。
 - ・児童が友だちの体調を知る。
 - ・発声や身ぶりなど自分でできる方法で返事をする。
 - ・友だちの出欠を知る。

朝の会の流れとねらい(2)

4. カレンダーとお天気調べ
ねらい：・日付を意識し、日付を知る。
 - ・天気を意識する。
 - ・2択から天気を選ぶ。
 - ・クッションカレンダーを剥がしたり、貼りつけたりする。
5. 今日の予定
ねらい：・一日の流れを知る。

朝の会の流れとねらい(3)

6. 週末のできごと/昨日のできごとの発表
ねらい：・友だちの前に出て発表する。
 - ・伝えたいことがある時にはそれをSTに伝える。
7. 終わりの挨拶
ねらい：・活動の終わりを意識する。

朝の会の流れとねらい(4)

8. 全体を通して
 - ・呼名や歌などを通して、友だちや先生との関わりを広げ、やりとりを楽しむ。
 - ・自分がしたい時、やりたいことをしっかりと伝える。

2. 朝の会について

(1) こんな風に並んでいます

医療的ケアの例
(口腔内吸引)

黒板

立位台(ブロンボードなど)などを使って自立活動の要素を含めながら取り組んでいます。

吸引機

医療的ケアが必要な児童はスペースが取れて、動きやすい端に。

ブロンボード

引用・参照1

(2) 朝の会の歌

- 声を出したり、手を大きく動かすことを意識して、取り組んでいます。

「おは・おはよう」
 手と手を伸ばして、お・は・よ・～
 手と手を伸ばして、お・は・よ・～
 手と手を伸ばして、遠くまで～
 おはよ・おはよ
 おは・おはよう♪

(3) 出欠調べ

手を伸ばして、黒板に貼り付けます。ちょっと遠くても頑張って取り組んでいます。

欠席の児童がいる場合、呼名しても返事がないことを確認して、「おやすみ」コーナーにカードを貼ります。

(4) カレンダーとお天気調べ

こんなクッションカレンダーを使っています。

1か月を表すものもあります。

なぜクッションにしたかというところ…指先でガリガリとして剥がすことができたり、軽く握って持つことができます。(マジックテープ付きクッションになっています。)

児童の目の前に提示して、外したり、貼ったりしてもらっています。

お天気はこの3種類を使っています。

(5) 今日の予定を知る

予定の横に番号を付けたり、文字だけだったカードに絵を加えたりしました。

指差し棒を使って、見るべきカードを示します。

3. 今後、取り組む予定について

- A. 司会にチャレンジ
- B. 一日の流れ

A 音声再生装置を使って ～朝の会の司会にチャレンジ～



ステップバイステップを使っての呼名。
(自分がスイッチを押したことで、友だちや先生が返事をするを通して、自分から働きかけることの楽しさを経験するきっかけのひとつとして)



友だちを呼ぶ順番をきめることのできる児童は、スーパートーカーを使って…。



対象A-1

- 音声言語によるコミュニケーションが困難
- 目的の場所に手をのぼすことがむずかしい

音声を録音できるスイッチ A-1



- 例 ○名の方の名前を録音
- 押す 1回目 ○○くん
2回目 △△さん
3回目 □□さん

出席とりができた！

その他の使い方 例

☆ あいさつ
押す

- 1回目 「きりつ」
- 2回目 「気をつけ」
- 3回目 「礼」
- 4回目 「これから朝の会を」
- 5回目 「はじめます (おわります)」
- 6回目 「着席」

☆ 歌を歌う
押す

- 1回目 「あるーひ」
- 2回目 「森の中」
- 3回目 「熊さんに」
- 4回目 「出会った」
- 5回目 「花咲く森の中」
- 6回目 「熊さんに 出会った」

対象A-2

音声言語によるコミュニケーションが困難
目的の場所に手をのぼすことができる

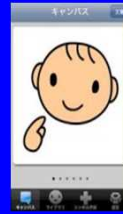
音声を録音できるスイッチ A-2



<特徴>

- ・スイッチに写真や絵を貼り付けることができる
- ・言うことを自ら選択できる
- ・2～8個のスイッチを実態に応じて選択できる

iPadが音声出力コミュニケーション機器に



<特徴>

- ・iPadで、取り込んだ写真やイラストをそのまま活用できる
(制作の時短・手間が省ける)
- ・テレビに映し出して、画像を共有できる
- ☆アップルTVを 使えば無線でOK

ことばの理解が深まる



「きりつ」ってああするんだ

呼ばれる順番がわかる・場を共有できる

出席とり



誰が呼ばれるかがわかる

あの子が呼ばれるのね

主体的学習

ほくが〇〇さんと呼ぶよ

次は、私が呼ばれるわ

心の準備ができる

引用・参照2

B.一日の流れ

時間	授業など
9:00	朝の準備・健康観察
	児童A
	9:40 課題 9:50 休憩
10:00	朝の会
10:25	休憩
10:40	授業
11:15	休憩・給食準備
11:45	給食
12:45	休憩
13:20	午後の授業
14:20	休憩・帰りの会の準備
14:50	帰りの会

朝の会をすることは決まっていたが、時間がまちまちだったので、開始時間を決めました。

最後になりましたが、全体はこんな感じです・・・

